

友達と思いや考えを伝え合い、互いに認め合う幼児の育成 — 幼児の思いや考えを“見える化”することを通して—

特別研修員 幼児教育 大淵光規 (幼稚園教諭)

学級の実態



言葉でのやり取りが苦手、相手の思いを理解するなど個人差があり、仲間関係に影響している(5歳児)

教師の願い



- ◎ 思いや考えを伝え合えるようになってほしい
- ◎ 相手の思いに気付いて関わるようになってほしい

“見える化”で認め合う関係作りを!

“見える化”『つぶやきマップ』実践①「探検に行こう！」

連想したことを絵に描き、線でつないでいくマップを自分の思いや考えを出せるようになるために活用

“見える化”『きもちカード』実践②「長椅子といゲーム」

気持ちをイラスト化したカードを相手の思いに気付いて関われるようになるために活用

手立て

『つぶやきマップ』の活用



みんなで探検に行こう！
一緒に宝を探そうよ。



考えを出し合う

「宝は何にする？」
「お花！」「剣！」

思いを出し合う

「僕がドクロを描きたい」
「私も描きたい」

思いを伝え合う

「お花はばらにしよう」
「熊が出たら剣で助けてあげる」



手立て

『きもちカード』の活用



みんなと一緒に遊びたい！
でも、すぐに喧嘩になっちゃう...



思いを聞き合う

「どうする？」
「この考えはどう？」

相手の思いに気付く

「めめめその顔... 悲しいの？」

相手の思いを考える

「違う気持ちも、混ざってるのかな？」

互いを認め合う

「すぐ、にこにこになれなくてもいいよ」



変容

◎ 思いや考えが絵に残ることで、見直したり書き足したりして継続して友達との話し合いを楽しむようになった。

◎ 友達がどんなことを思い、考えているのかを理解しようとしながら関わるようになった。

成果

- “見える化”で思いや考えが目で見え分かりやすくなったため、どの幼児も自分の思いを伝えやすくなったり友達の思いにも気づきやすくなったりした。
- “見える化”により友達の多様な思いや考えに触れたことで、友達に関心を寄せながら関わるようになり、互いを認め合う姿につながった。

課題

☆ 幼児の発達段階に応じて、思いや考えを“見える化”した方が良い場面と、音声言語での伝え合いの方が良い場面を明らかにし、幼児の実態に合った取り入れ方を検討していく。